

コロナ禍での 地域リハビリテーション活動から学んだこと

～長崎市における取り組みを通して～

一般社団法人是真会 地域リハ推進部 部長

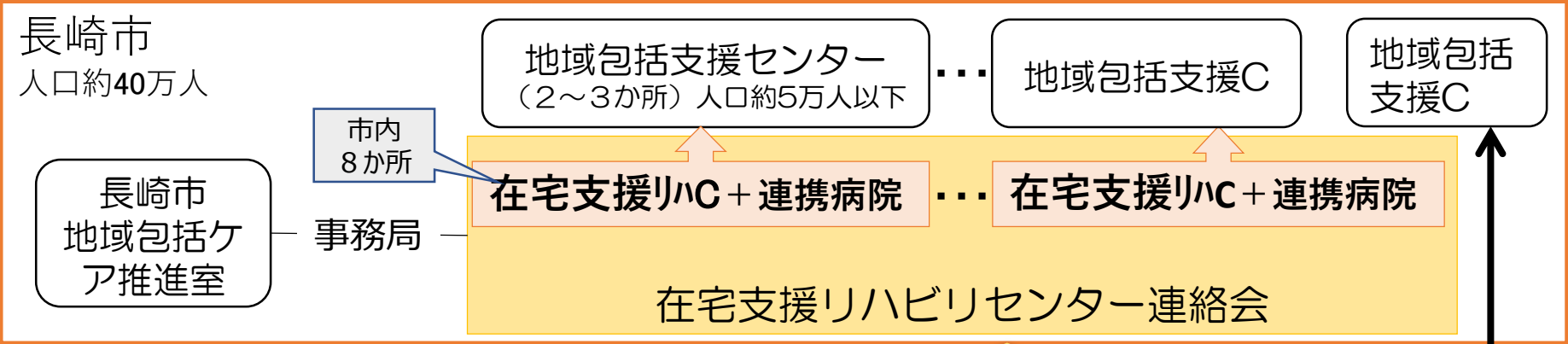
本田 憲一

本日の内容

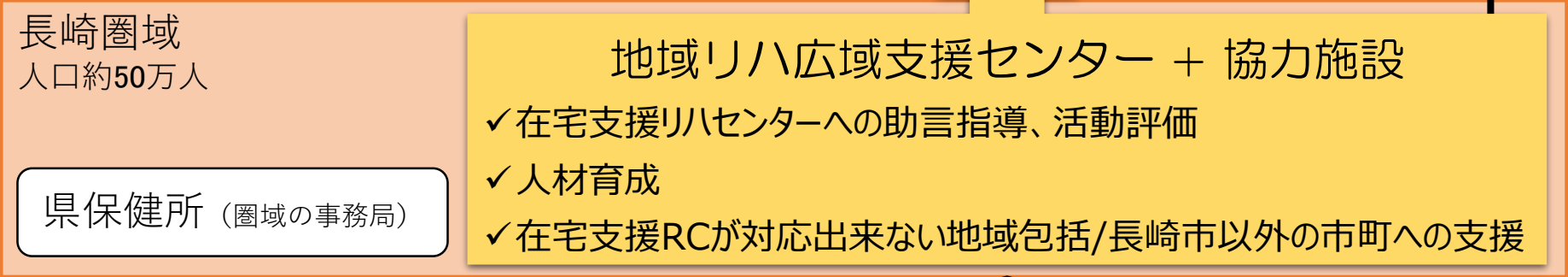
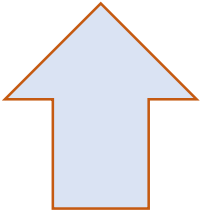
1. 長崎市の地域密着型支援体制
2. 新型コロナウイルス到来
3. WEB活用に向けての対策支援
4. 長崎市在宅支援リハビリセンター事業に関するアンケート調査

- 1. 長崎市の地域密着型支援体制**
- 2. 新型コロナウイルス到来**
- 3. WEB活用に向けての対策支援**
- 4. 長崎市在宅支援リハビリセンター
事業に関するアンケート調査**

地域リハ支援体制と長崎市在宅支援リハビリセンター事業



2~3包括



20包括

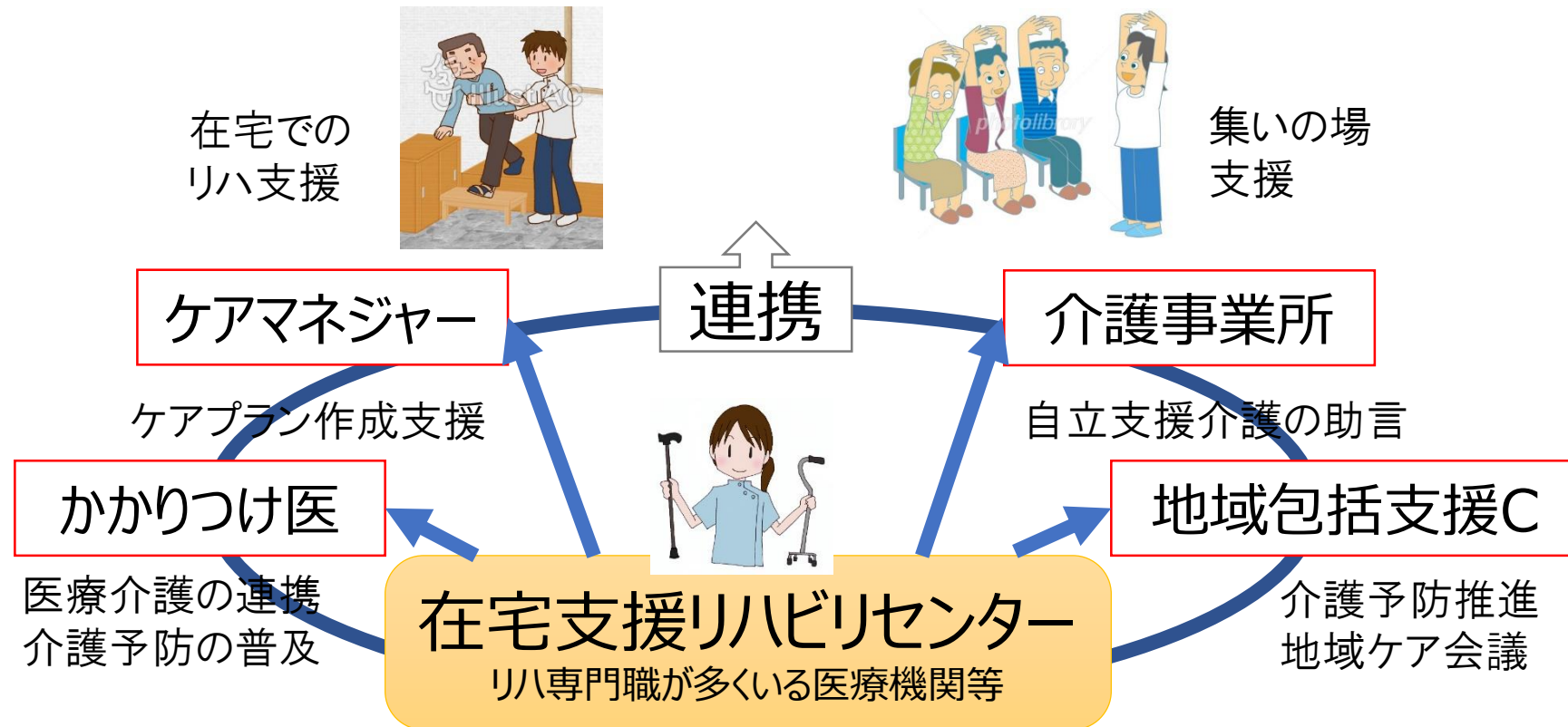
長崎県
人口約126万人

長崎県リハ支援センター

長崎県地域リハ推進部会

長崎県地域包括ケアシステム推進協議会

長崎市在宅支援リハビリセンター推進事業



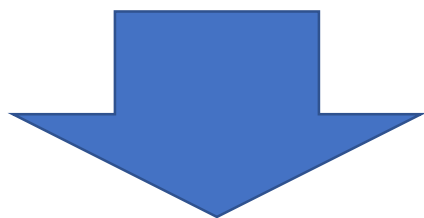
高齢になっても自立した社会生活が継続できるように、
リハビリテーションを「病院」から「地域」へ広げる

期待される効果：重度化予防、要介護状態の軽減、リハビリ意識の向上 等

これまでのかかわり方

地域包括支援センター

- ・1病院だけに相談は出来ない



長崎リハビリテーション病院

- ・単発での相談
- ・当院での対応のみ検討
- ・直接の相談は無い

センターとしてのかかわり方

地域包括支援センター

- ・相談先として設置された
- ・いつでも相談できる体制



在宅支援リハビリセンター

(長崎リハビリテーション病院)

- ・センターとして指定を受ける
- ・他の関係機関にも打診可能
- ・継続的な支援が可能

同行訪問による評価と啓発

通いの場づくりと支援

在宅での
リハ支援



集いの場
支援



ネットワークづくり

関係者への啓発研修

1. 長崎市の地域密着型支援体制
2. 新型コロナウイルス到来
3. WEB活用に向けての対策支援
4. 長崎市在宅支援リハビリセンター
事業に関するアンケート調査

長崎市からの通達

R2.2.27時点

新型コロナウイルス感染症の国内における感染拡大を防ぐため、令和2年2月25日に国から示された「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」や令和2年2月26日の「新型コロナウイルス感染症対策本部（国）」において「この1～2週間が感染拡大防止に極めて重要」とされたことを踏まえ、令和2年3月15日（日）までの市主催のイベント及び集会等は本基準により、開催可否を判断することとする。

2. 延期または中止を前提とするもの

次の（1）または（2）に該当するもの

（1）感染の拡大が懸念される状況下において、**緊急性・必要性が低いもの**

（趣味、学習、余暇の要素が強いもの等）

（2）コロナウイルス収束後に実施することで、同じ効果を発揮することが期待されるもの

（集客・啓発イベント、講習会等）

当法人が実践している地域リハ活動

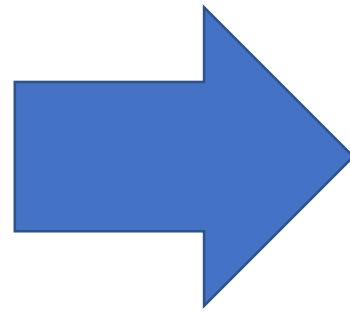
2020年4月～5月

活 動	主な活動	開催状況
集 う	利用者、家族、地域住民などが、集う活動への支援	中 止
	○患者会・家族会（長崎シャチの会） ○作品展（季楽会） ○自助グループ 等	
育 む	当事者や介護者、支援者などの学びの支援	中 止
	○住民向けの講話 ○介護従事者の研修会	
繋 ぐ	市町事業や地域ケア会議など外部とつながるための支援	中 止
	○地域ケア個別会議 ○地域ケア推進会議 等	

2020年5月～6月

活 動	主な活動	開催状況
集う	利用者、家族、地域住民などが、集う活動への支援	中止
	○患者会・家族会（長崎シャチの会） ○作品展（季楽会） ○自助グループ 等	

ニュースの発刊（月1回）



自宅での閉じこもり・孤立予防
【内 容】

- 1.運動紹介
- 2.悪質商法・詐欺への注意喚起
- 3.脳トレ問題
- 4.情報のやり取りを促す

銀屋倶楽部

ニュース



2020(令和2)年 5月号

(一社)是真会 地域リハ推進部
(長崎リハビリテーション病院)
編集長 本田 憲一
編集者 松尾 健吾
〒850-0854 長崎市銀屋町4番11号
TEL: 095-818-2002



2020(令和2)年 臨時便

(一社)是真会 地域リハ推進部
(長崎リハビリテーション病院)
編集長 本田 憲一
編集者 松尾 健吾
〒850-0854 長崎市銀屋町4番11号
TEL: 095-818-2002

2. 背伸び



3. 体幹回旋 4. スクワット



* 通いの場再開時のチェックポイント

- 【会場】
- ・ 収容定員の半数以下
- 【感染防止策の実施】
- ・ 待合場所等における密集の回避
 - ・ 手指の消毒
 - ・ マスクの着用
 - ・ 室内の換気

* 密閉された空間での大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話が想定されるイベントは中止

「脳トレ」の答え合わせをしたい！更にヒントが欲しい！ちょっと相談したい！などありましたら是非ご連絡ください。

皆さま、メール使えますか？この際、使用できるように練習しましょう。

※携帯やパソコンのメールを使ってみましょう。



メール：happy-reha@zeshinkai.or.jp

電話：818-2002 FAX:821-1187



長崎市高齢者すこやか支援課長

高齢者ふれあいサロン運営者 様

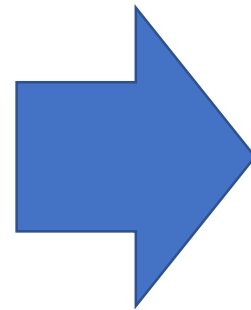
長崎市高齢者ふれあいサロン活動の再開について（通知）

長崎県下全域の判断は【ステージ3】ですが、長崎市は【県ステージ2の水準】であるため、介護予防の観点から6月8日以降は、次の感染防止対策を徹底していただくことを前提として、再開できることとしましたのでお知らせいたします。

2020年7月～

活動	主な活動	開催状況
集う	利用者、家族、地域住民などが、集う活動への支援	再開支援
	○患者会・家族会（長崎シャチの会） ○作品展（季楽会） ○自助グループ 等	

- 通いの場への情報提供
- 再開に向けての注意点を説明
- 通いの場への支援体制強化
- 参加者同士の交流促進



【活動支援】

- 閉じこもりの解消
- 声掛け・交流促進
- 正しい感染対策

1. 長崎市の地域密着型支援体制
2. 新型コロナウイルス到来
3. WEB活用に向けての対策支援
4. 長崎市在宅支援リハビリセンター事業に関するアンケート調査

紙媒体での活動継続と同時に、

ZOOM 参加手順

パソコンでZoomミーティングに参加するには何が必要？

パソコンでZoomミーティングに参加するには、3つの機器が必要になります。

1 ウェブカメラ

自分の顔を写すために必要です。
マイク内蔵のものが多いです。

2 マイク

自分の声を相手に届けるために必要です。

音質にこだわらない限り、WEBカメラに内蔵されているマイクを使えばOKです。|

3 スピーカー

相手の声を聴くために必要です。
ヘッドセットやイヤホンでもOKです。



最近のノートPCには
ほとんど内蔵されています。

スマホ
タブレットでも可能です。
アプリストアで「ZOOM」をダウンロードください。

ノートパソコンや、画面一体型のデスクトップパソコンの場合、これら3つの機器が、内蔵されていることも多いです。

解らなければ連絡ください！

直接お伺いして説明します！

担当地区 **地域包括支援センター**
関係機関
介護サービス事業所 **など**

コロナ禍での活動

- 担当地区の通所事業所へマスクの配布
(感染対策についての助言)
- 市内の関係機関を対象とした感染予防対策研修会開催
(感染対策の啓発)
- 通いの場での感染予防対策の講話
(参加者から同居者や親族へ伝達)

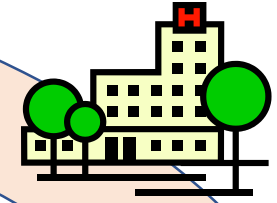
地域リハのイメージ

ネットワークづくり

サービスの質・量の充実

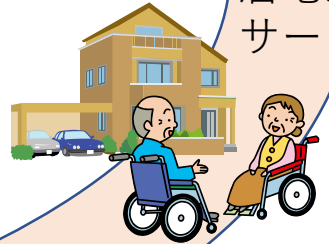
減塩

管理栄養士

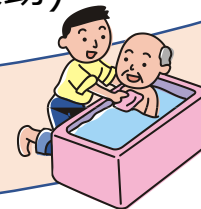


認知症疾患
医療センター

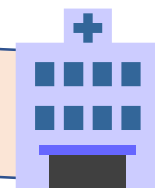
施設・
居宅系
サービス



通所系
サービス



回復期
リハ病院



急性期
病院

かかりつけ医



ケアマネジャー



地域包括支援
センター

歯科医



歯科衛生士



薬局



社会参加の場づくり

社会参加諸活動



認知症
カフェ等



住み慣れた所で
その人らしく生きる



認知症
サポータ



民生委員、
福祉協力員



ボランティア



通いの場

自助(介護予防)の
推進



地域の見守り・支え合い(共助)

コロナ禍での活動からの学び ①

- WEB接続方法について対面での伝達 関係性の深化
 - 通いの場参加者（住民）同士の交流は継続
 - 主体的なサロンでは、支え合い活動も確認された
 - 交流が減少することにより、精神面への影響が大きい
- ⇒ **対面での開催で徐々に改善！**

1. 長崎市の地域密着型支援体制
2. 新型コロナウイルス到来
3. WEB活用に向けての対策支援
4. 長崎市在宅支援リハビリセンター
事業に関するアンケート調査

支援事業の調査内容①

1. 実施状況・進捗状況
2. 「支援を希望する取組」
3. 活動上、困っている事を調査

支援事業の評価

① 介護予防教室での指導 (6項目)

② 通いの場での指導 (6項目)

③ 通いの場づくり (4項目)

④ 同行訪問 (2項目)

⑤ 地域ケア会議 (3項目)

⑥ ネットワークづくり (2項目)

⑦ センターの運営 (3項目)

各支援について

- ① 運動指導
- ② 体力評価
- ③ 口の体操指導
- ④ 栄養指導
- ⑤ 認知機能向上
- ⑥ 認知機能評価

- ① 地域包括支援センターとの協議
- ② 地域ケア推進会議での協議
- ③ 自治会等との協議
- ④ 地域ケア個別会議

- ① ケアマネジャーとの連携
- ② ケアプランへの反映

- ① 会議への参加
- ② 助言/指導内容
- ③ 地域課題等の把握

- ① リハ専門職とのネットワークづくり
- ② リハ専門職以外とのネットワークづくり

- ① 事業等の周知
- ② 活動全般
- ③ リハ専門職派遣の調整

支援事業の調査内容②

A:支援事業の評価

- ① 介護予防教室での指導 (6項目)
- ② 通いの場での指導 (6項目)
- ③ 通いの場づくり (4項目)
- ④ 同行訪問 (2項目)
- ⑤ 地域ケア会議 (3項目)
- ⑥ ネットワークづくり (2項目)
- ⑦ センターの運営 (3項目)

平均点の評価基準

3.1~4.0点：非常に上手く行っている

2.1~3.0点：上手く行っている

1.1~2.0点：上手く行っていない

0~1.0点：全く上手く行っていない

①「介護予防教室での指導 (6項目)」の評価

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| ①a 運動指導 | ①b 体力評価 | ①c 口の体操指導 |
| ①d 栄養指導 | ①e 認知機能向上 | ①f 認知機能評価 |

各実施状況(①a~①f)の評価基準

- 定期的に実施：4点
- 不定期に実施：2点
- 実施していない：0点

各進捗状況(①a~①f)の評価基準

- 問題なく実施：4点
- 問題あるが実施：2点
- 問題があり実施が厳しい：0点

①a~①fのうち、以下の基準から8センターの
課題ある支援を抽出

➤ 評価基準2.0点以下 OR

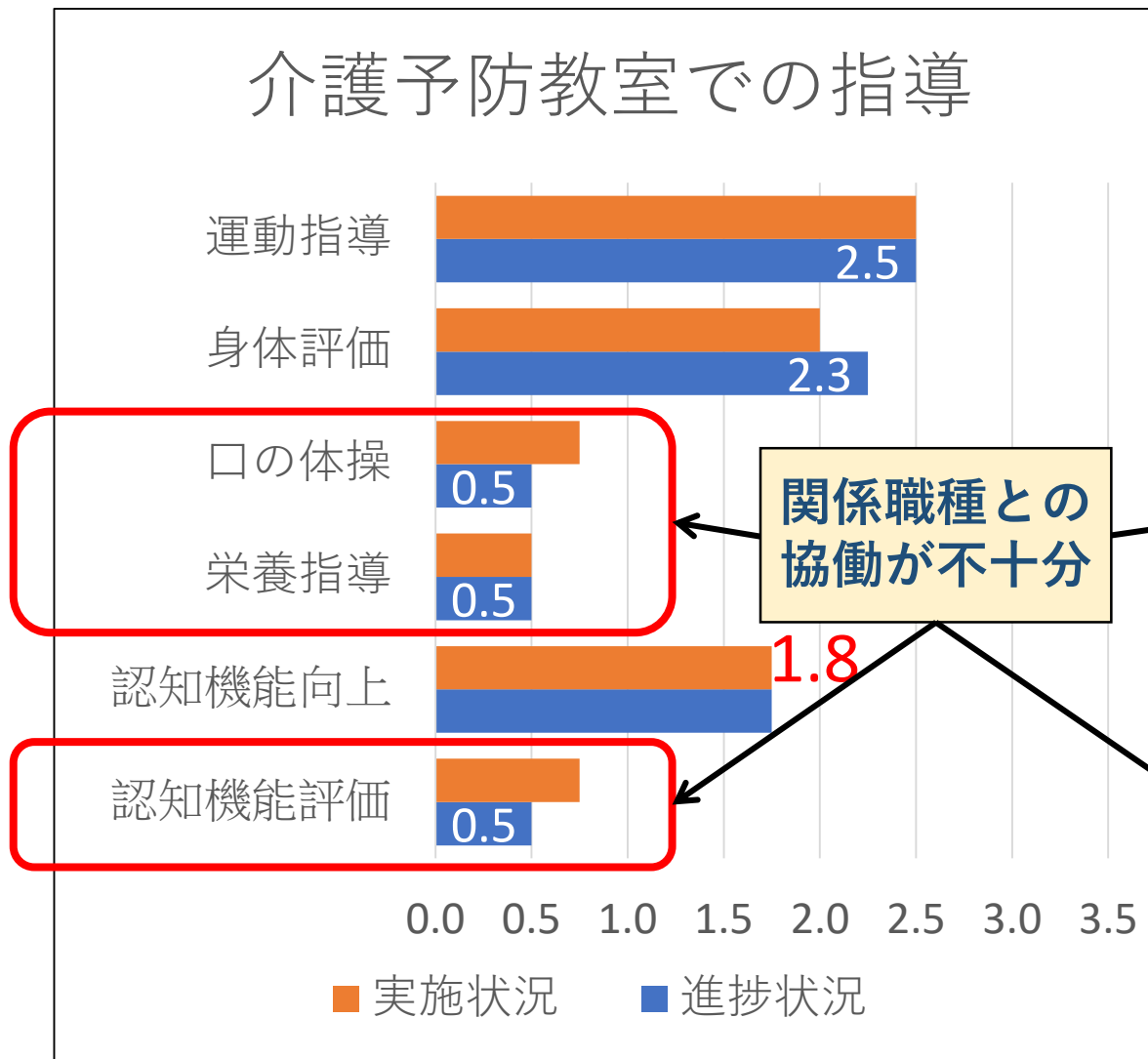
➤ 他の支援より有意に低い評価 (Friedman検定)

②~⑦についても、「課題ある支援」を抽出

介護予防に関する取組み

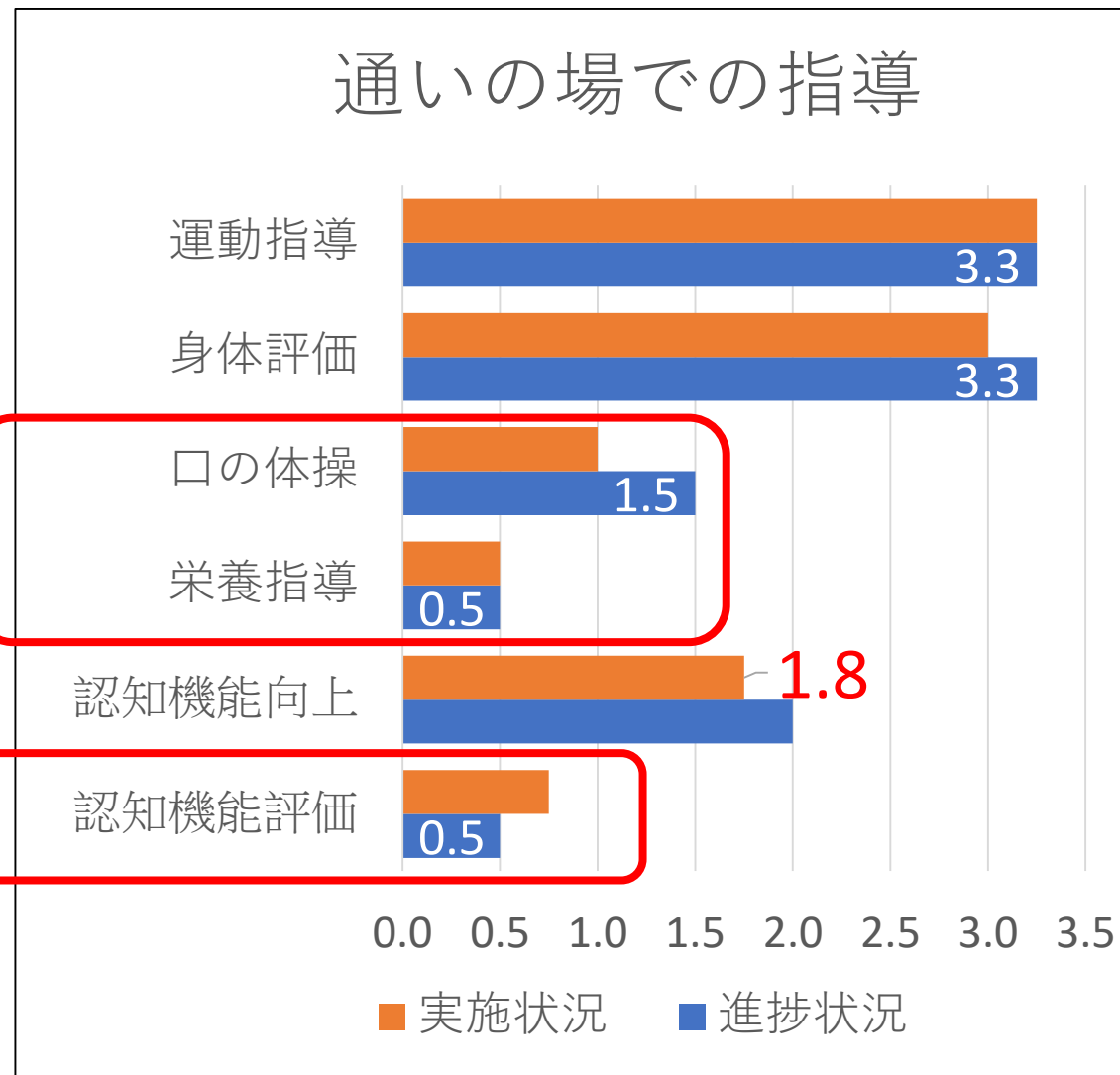
各実施・進捗状況の評価基準
3.1～4.0点：非常に上手く行っている
2.1～3.0点：上手く行っている
1.1～2.0点：上手く行っていない
0～1.0点：全く上手く行っていない

介護予防教室での指導



関係職種との協働が不十分

通いの場での指導



支援を行う上で困っている事

主な業務	支援内容	困っている事
<ul style="list-style-type: none"> 介護予防教室での指導 	口の体操	専門職（ST・歯科衛生士）の対応ができていない
	栄養指導	専門職(栄養士)の対応ができていない
<ul style="list-style-type: none"> 通いの場での指導 	認知機能向上	評価に基づいた介入、効果的な介入が分からない
	認知機能評価	評価に基づいた介入、評価が難しい
<ul style="list-style-type: none"> 通いの場づくり 	自治会等との協議	協議の場がない、住民の理解が乏しい
<ul style="list-style-type: none"> 同行訪問 	ケアマネとの連携	同行訪問への認識度が低い、ケアマネとの交流が少ない
	ケアプランへの反映	助言に自信なし(POSの課題)、助言が反映しにくい(CMの課題)
<ul style="list-style-type: none"> ネットワークづくり 	POSとの連携	コロナ禍で関係づくり困難、 <u>広域協力病院に留まる</u> 、連携可能な病院が少ない
	POS以外との連携	コロナ禍で関係づくり困難、専門職との関係が希薄
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議 	地域課題の把握	地域診断・ニーズが不明、地域課題の抽出が難しい、助言者の研修が必要
<ul style="list-style-type: none"> センターの運営 	専門職の派遣調整	コロナ禍のため外部への派遣が出来ない
	活動全般	POS以外の職種を理解がない

センターの支援活動の整理

地域密着的支援

- 介護予防教室・通いの場での指導
 - a. ST・歯科衛生士・栄養士の参加推進
 - b. 認知機能向上・評価の実施（OT参画）
- 包括・CMとの連携促進
 - a. 包括との定期的会議（課題共有）
 - b. 居宅連絡会でのCMとの課題共有・研修
 - c. 地域ケア個別会議メンバーのネットワークづくり
 - d. 地域ケア個別会議のフォローアップ
 - e. 住民との協議の場づくり
- 総合事務所との定期的会議

広域的支援

- 広域的研修
 - a. 認知機能・口腔ケア・栄養改善の研修(POSに)
 - b. 地域ケア会議への関わり方(POSに)
 - c. リハのあり方・自立支援(POS以外に)
- ネットワークづくり
 - a. センターの市内ブロック会議への参入でPOSネットワーク構築
 - b. 歯科衛生士・栄養士との連携体制構築
 - c. 専門職の派遣体制構築
- 長崎市の方角性の共有
 - a. 「包括」運営協議会への参画

コロナ禍での活動からの学び ②

- 活動内容の振り返りや研修は重要である
- 関係機関との協働は、連携を促進する
- 取り組みの振り返りにより、今後の活動が明確化

ご清聴ありがとうございました

